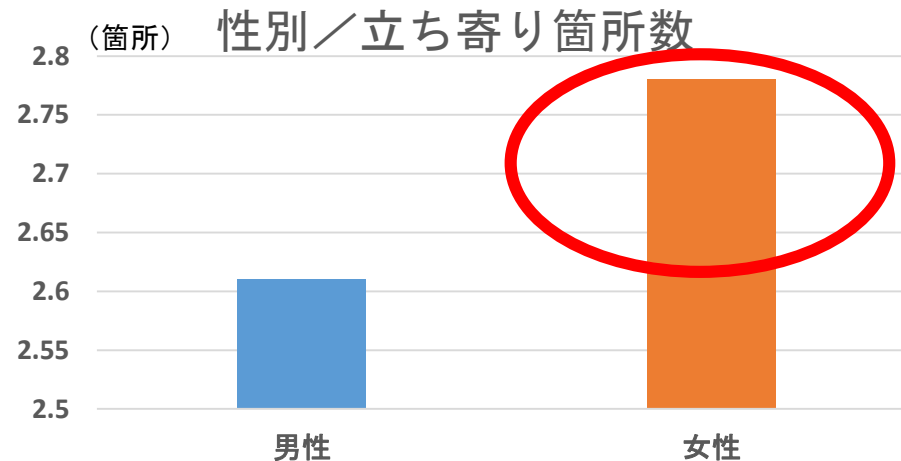
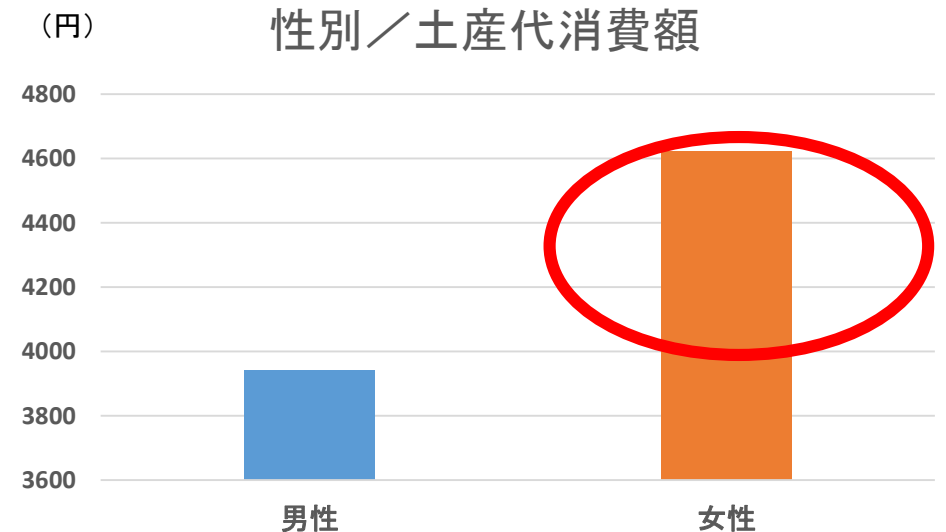
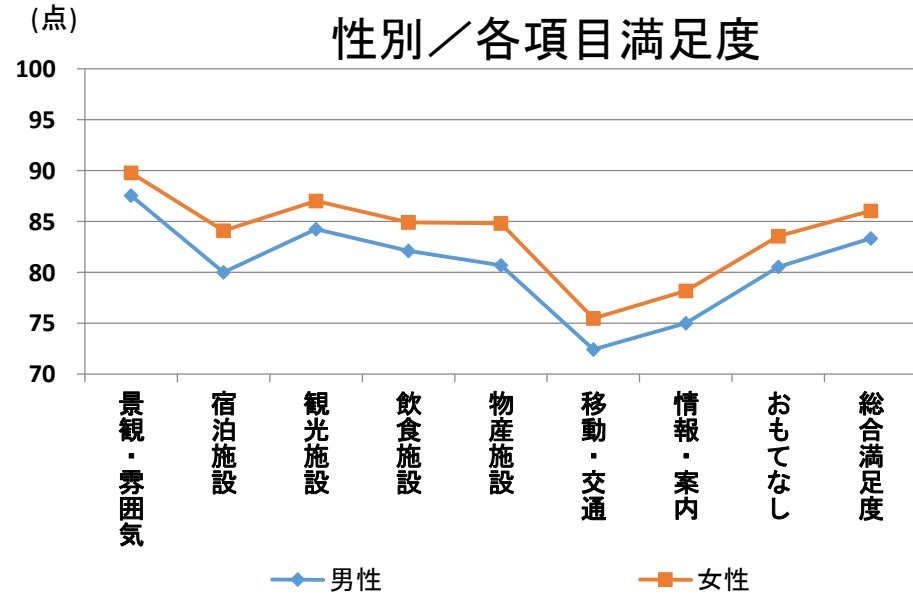


平成27年伊勢市観光客実態調査 ～伊勢市の特徴～

- 「女性」「若者」は伊勢に魅力を感じている。
- 遠方の観光客は市内に宿泊し、市内周遊を満喫している。
一人旅も多い。
- 近隣県からの観光客にとって宿泊施設の満足度が低いのは課題である。
- 若いカップル、家族（子どもと）は市外に宿泊している。
- 調査地点「二見」は市内周遊により消費総額が高くなっていることが推測される。

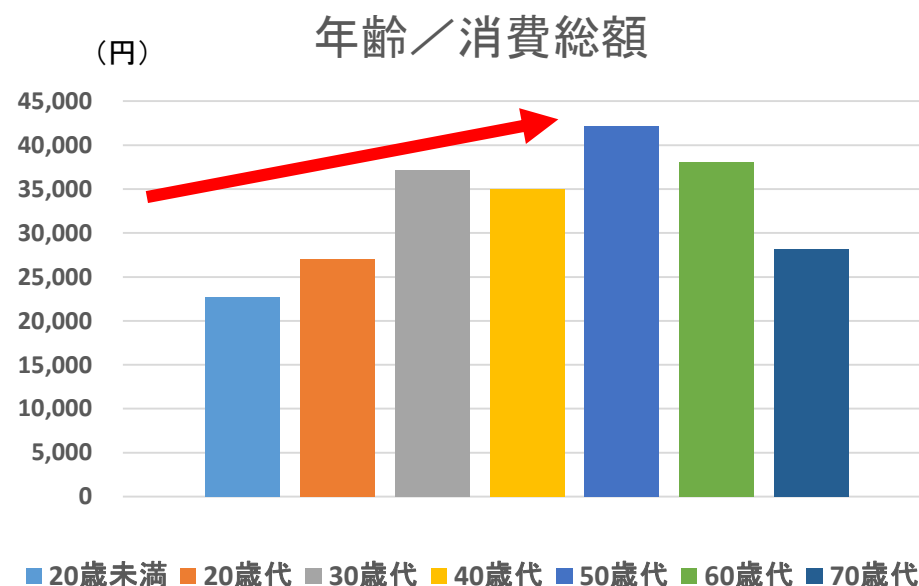
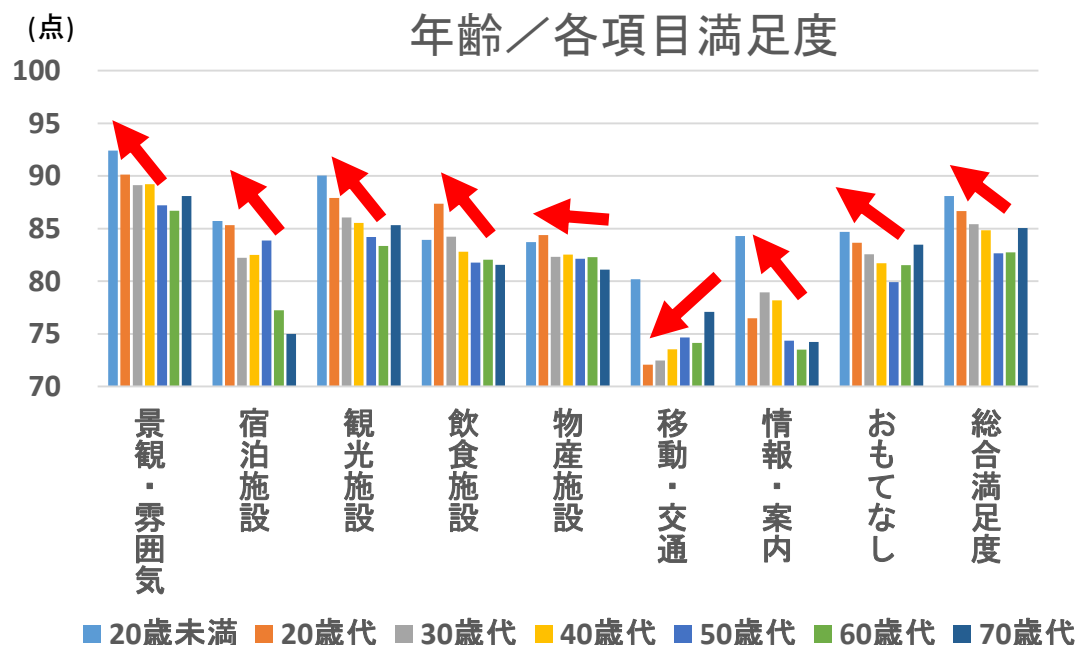
(参考) 本調査のサンプル数（市民を除く）は1582である。

とても満足している「女性」



女性は市内周遊をし、特にお土産をたくさん購入している。

旅行経験が少ない若者にとっても魅力的

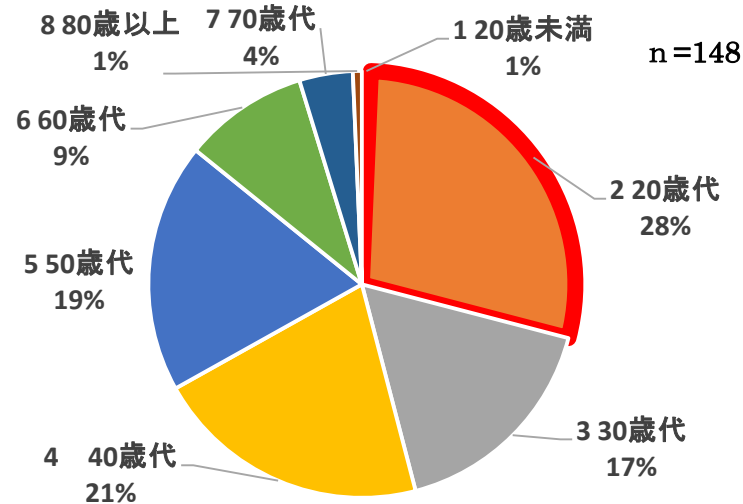


若いほど使えるお金が多くないため消費額は高くないが、満足度は高いため、今後、リピートを期待できる。

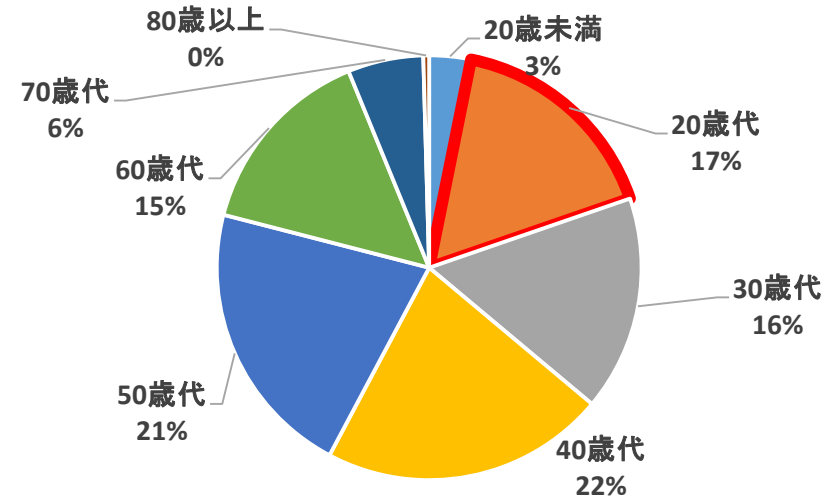
そのためには、満足度の低い「移動・交通」の改善が鍵である。

20歳代は口コミで来訪

年齢／きっかけが「友人知人からの勧め」

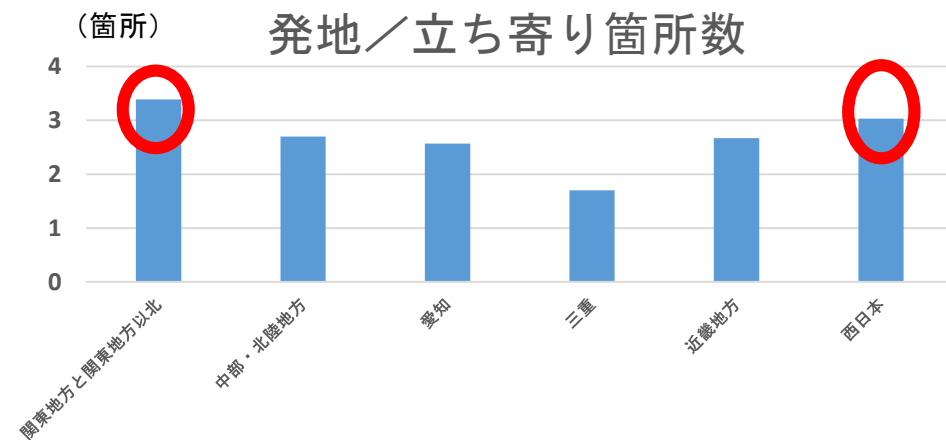
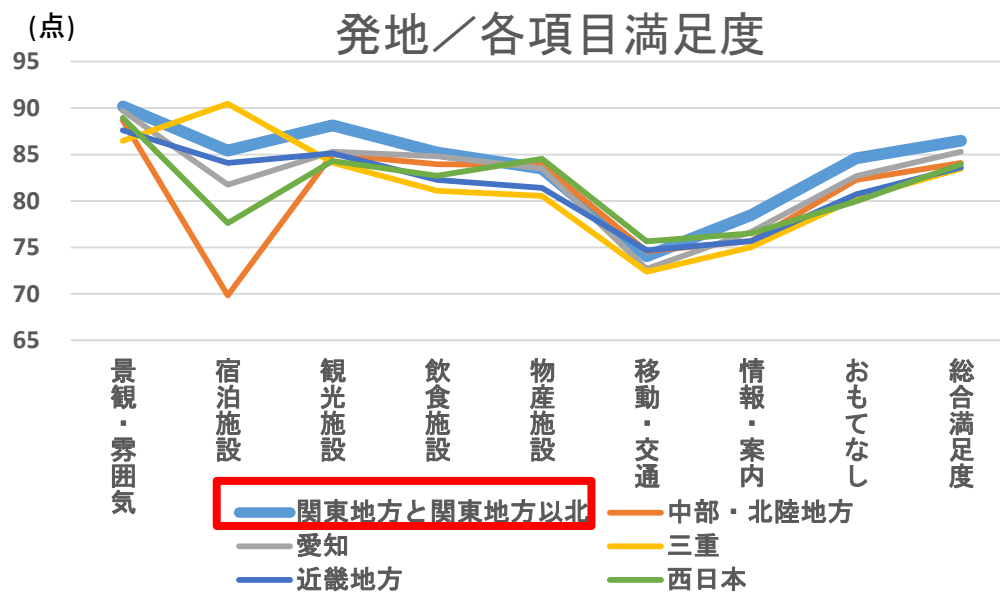
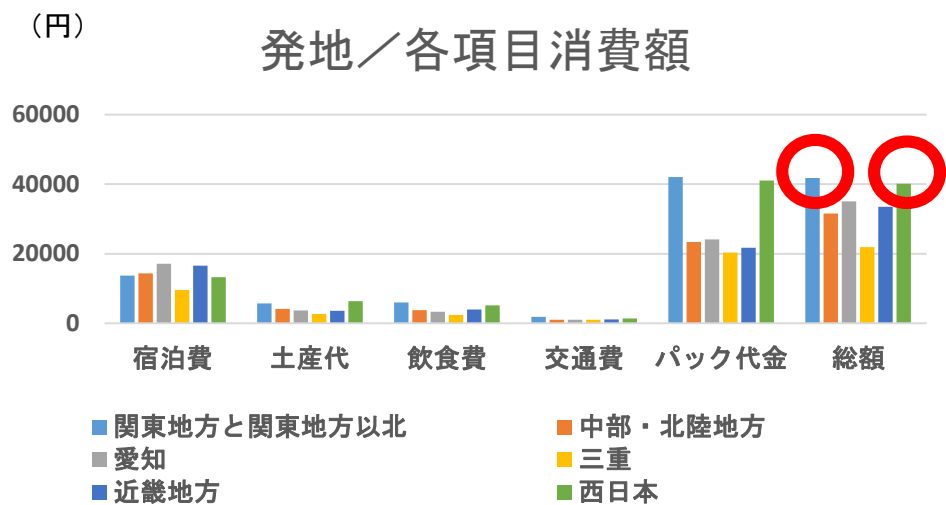


調査全体の年齢構成比



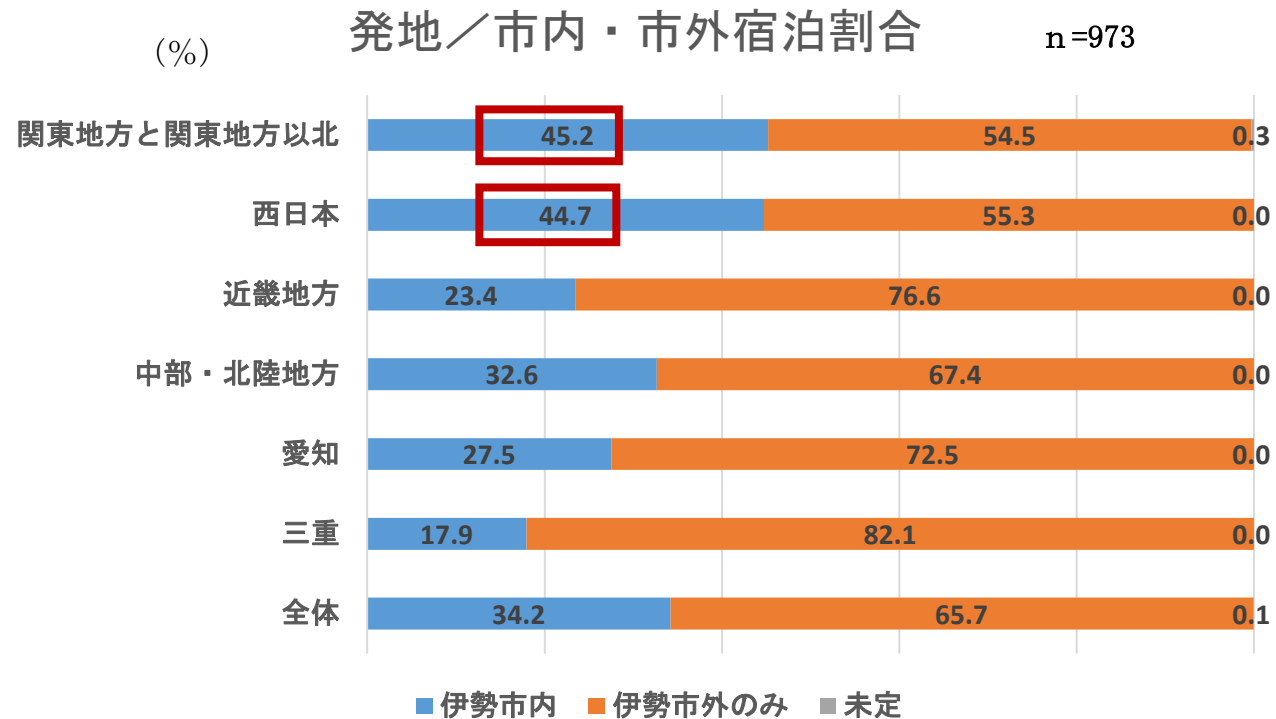
20歳代は「友人知人からの勧め」をきっかけに来訪する割合が、調査全体の年齢構成比よりも1割大きい。

遠方の観光客は市内観光を満喫している



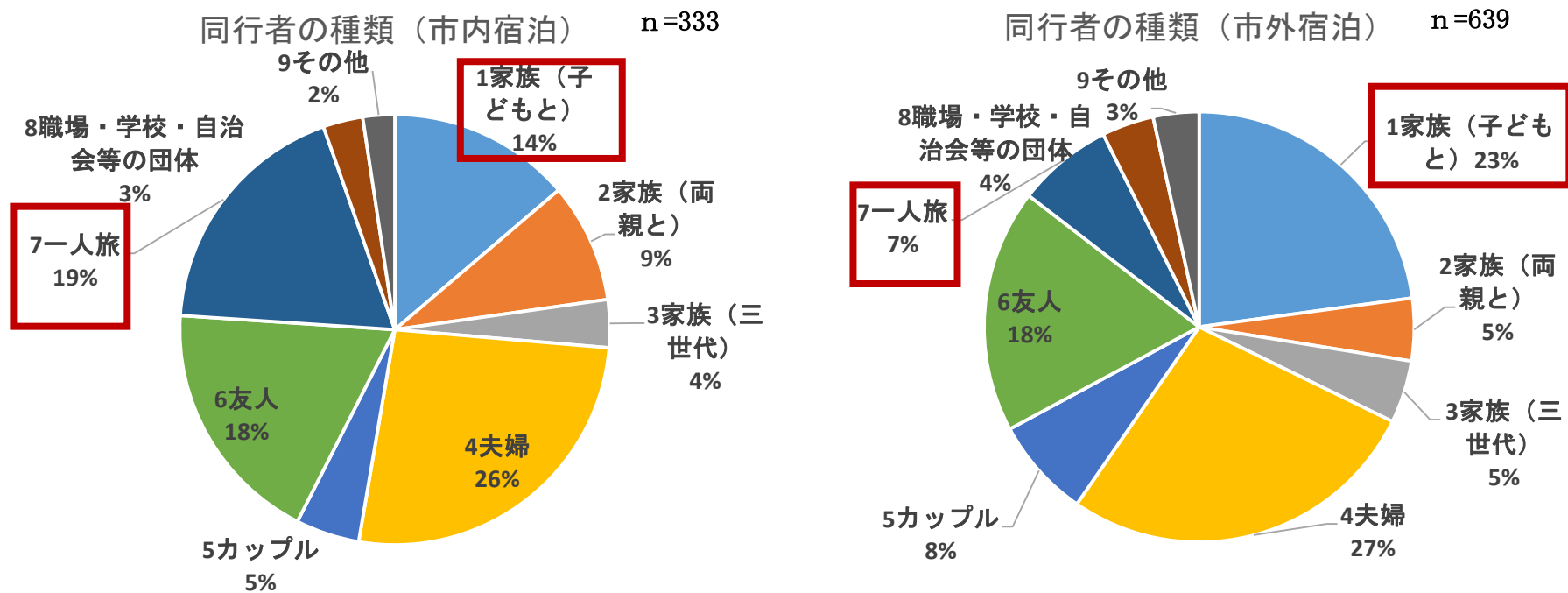
遠方の観光客のほうがたくさんの地点を立ち寄り、消費をしている。満足度も高い。

遠方ほど市内宿泊の割合が大きい



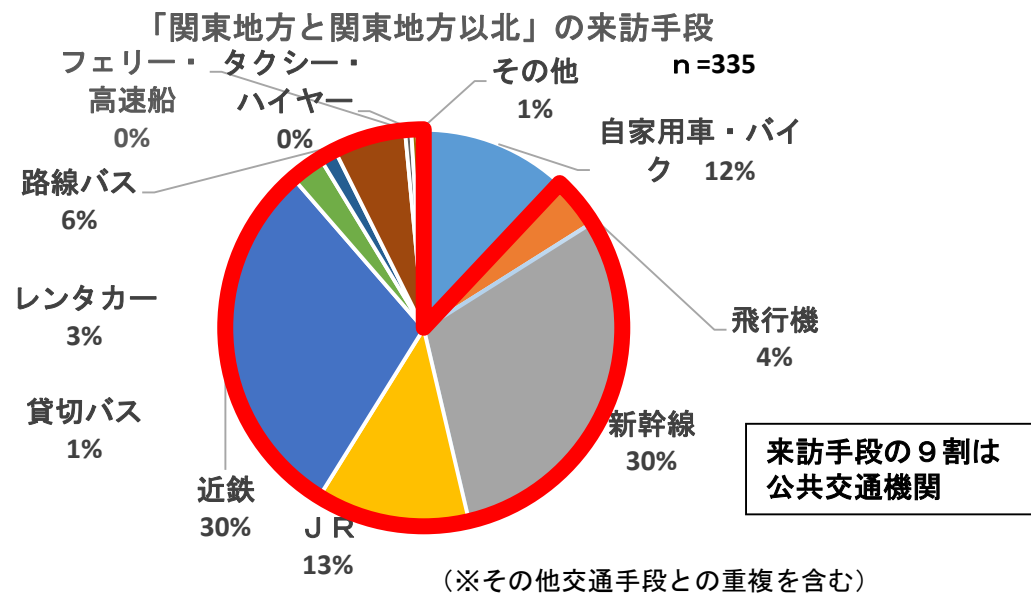
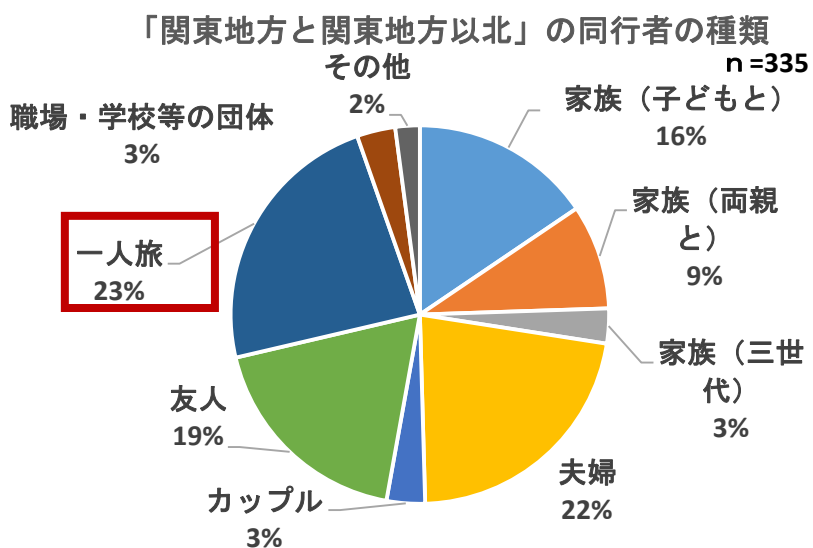
旅程に宿泊を伴う観光客のうち、「関東地方と関東地方以北」「西日本」の45%は市内に宿泊している。

一人旅は市内宿泊が多い



「一人旅」の割合は、市内宿泊者が市外宿泊者より1割大きい。
「家族（子どもと）」の割合は、市外宿泊のほうが1割大きい。

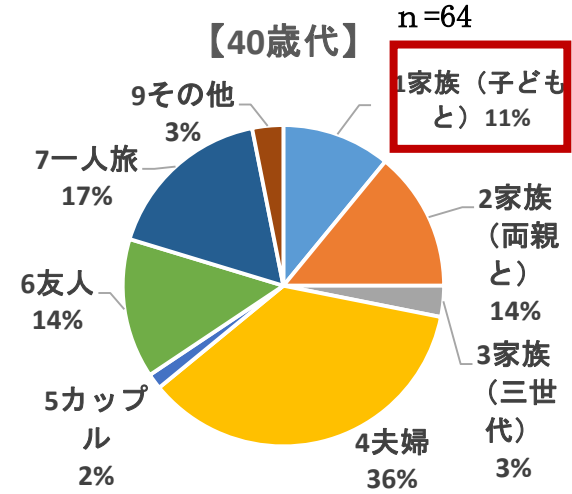
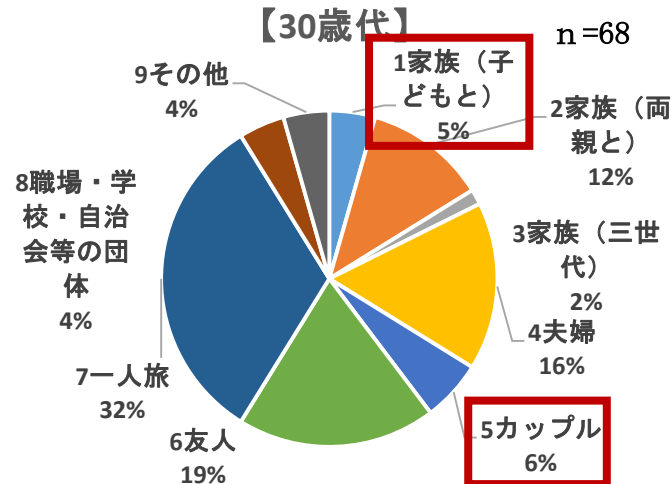
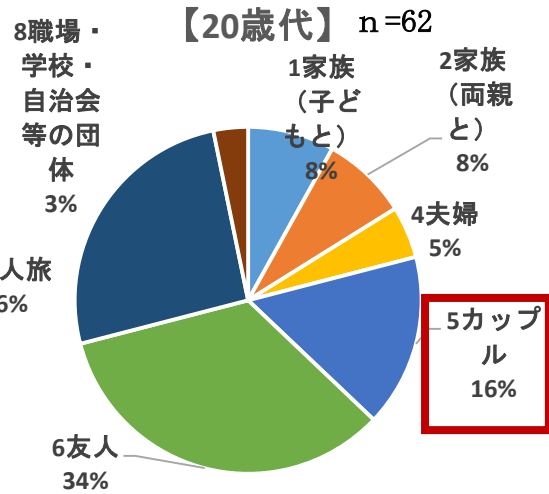
「関東地方と関東地方以北」は一人旅の割合が最も大きい



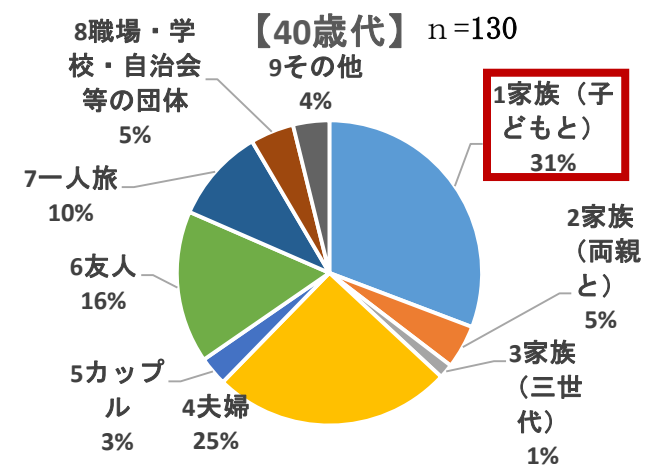
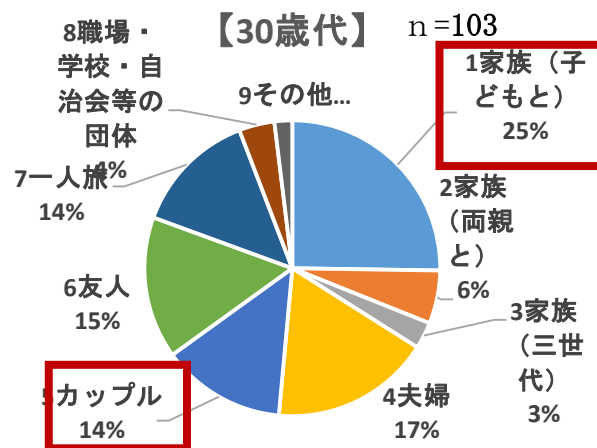
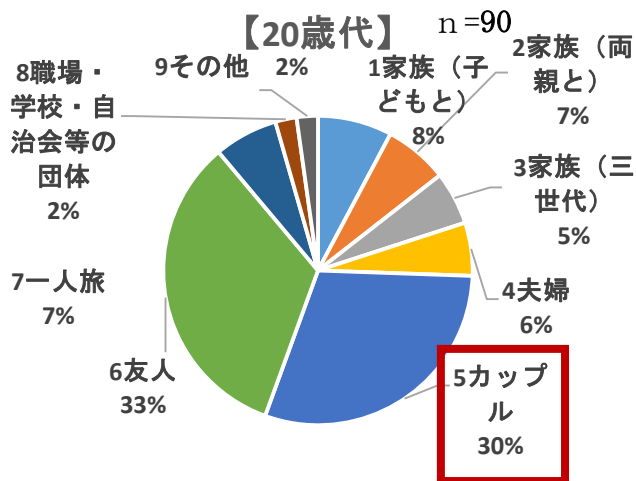
「関東地方と関東地方以北」は一人旅の割合が最も大きい。
また、「関東地方と関東地方以北」の来訪手段の9割は公共交通機関である。

20代・30代カップルと30代・40代の 家族（子どもと）は市外宿泊の割合が大きい

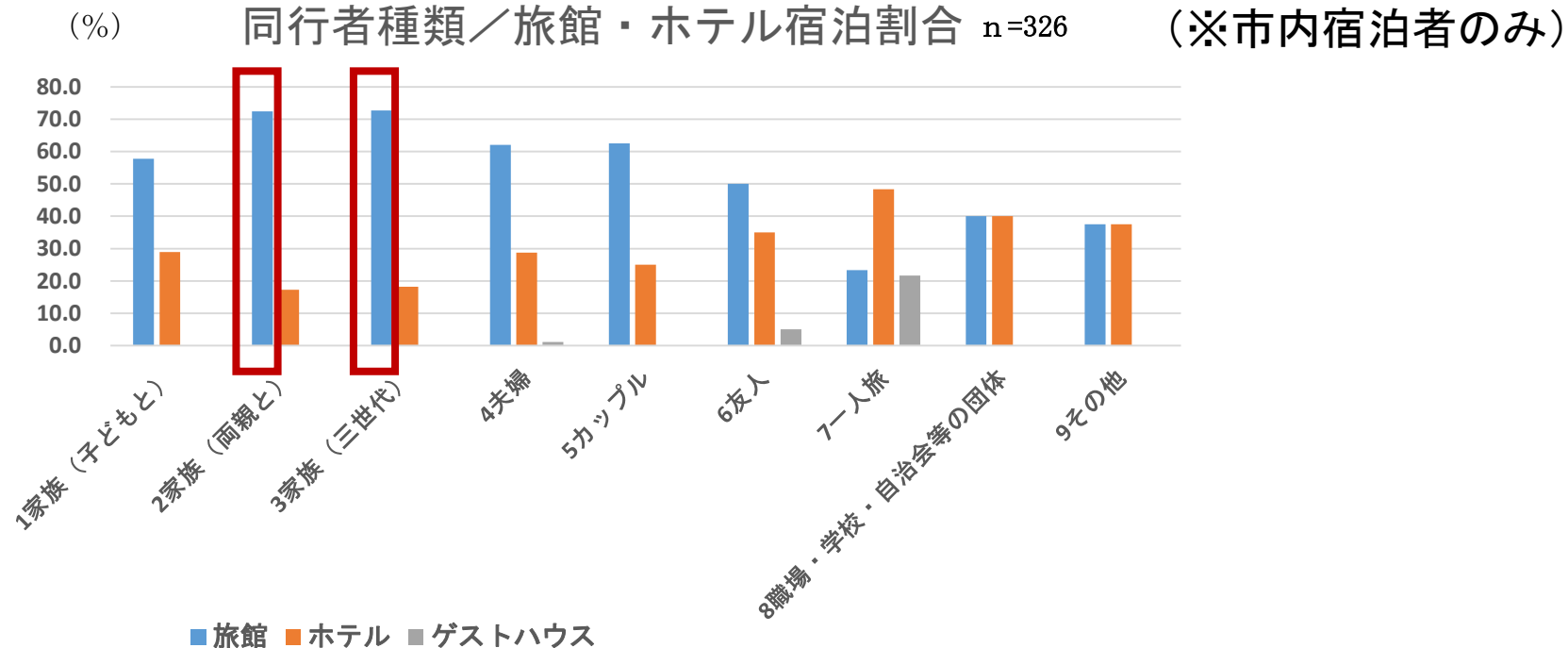
市内宿泊



市外宿泊



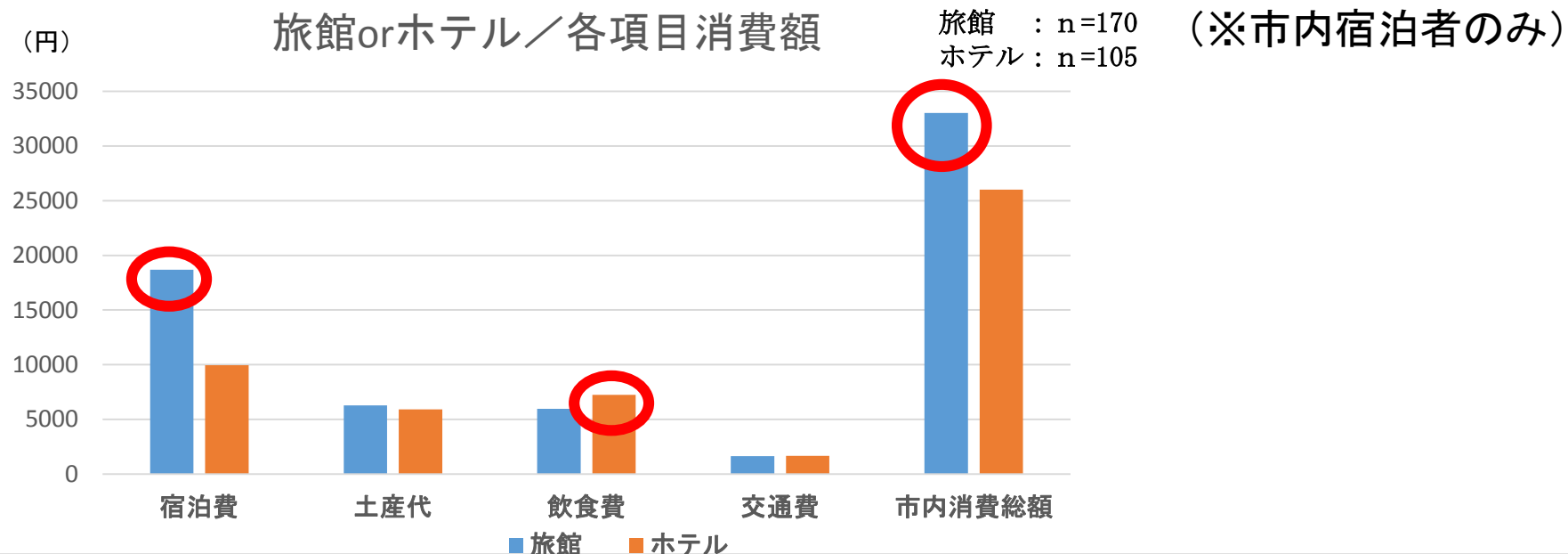
家族（両親と）、家族（三世代）は 7割以上が旅館に宿泊



家族連れ・友人は旅館、一人旅はホテルの宿泊傾向がある。
特に家族（両親と）、家族（三世代）は7割以上が旅館である。

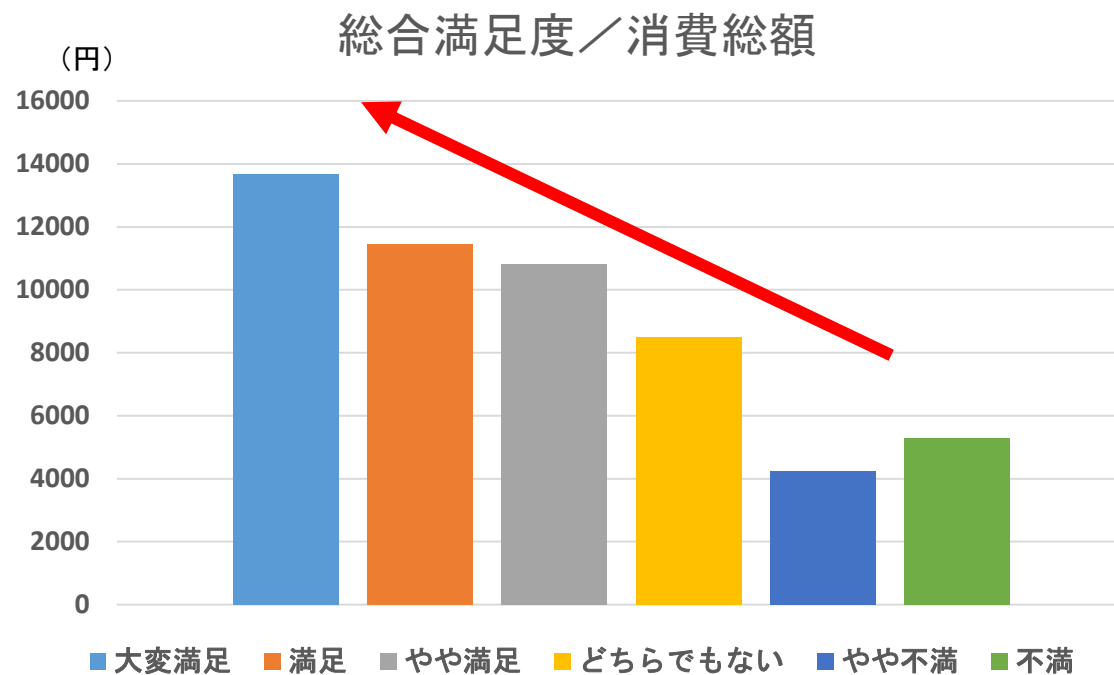
市内宿泊においては、旅館のほうがホテルより宿泊費が高い。

一方、ホテル利用者は飲食費が高くなっており、泊食連携のターゲットとして有力である。

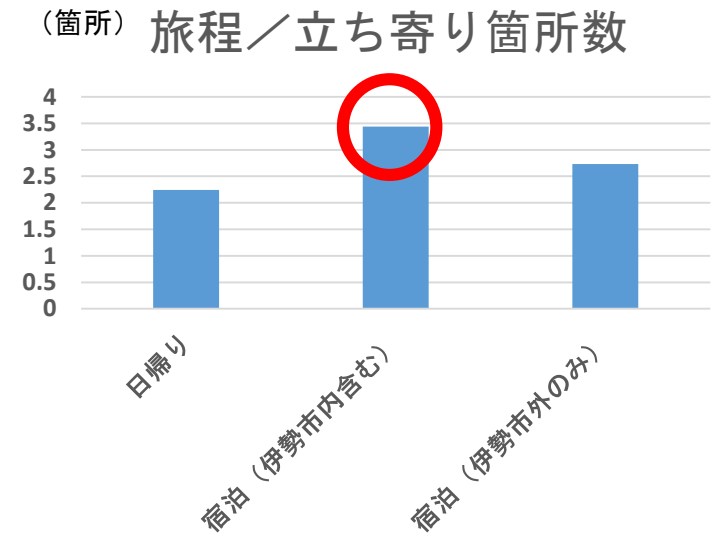
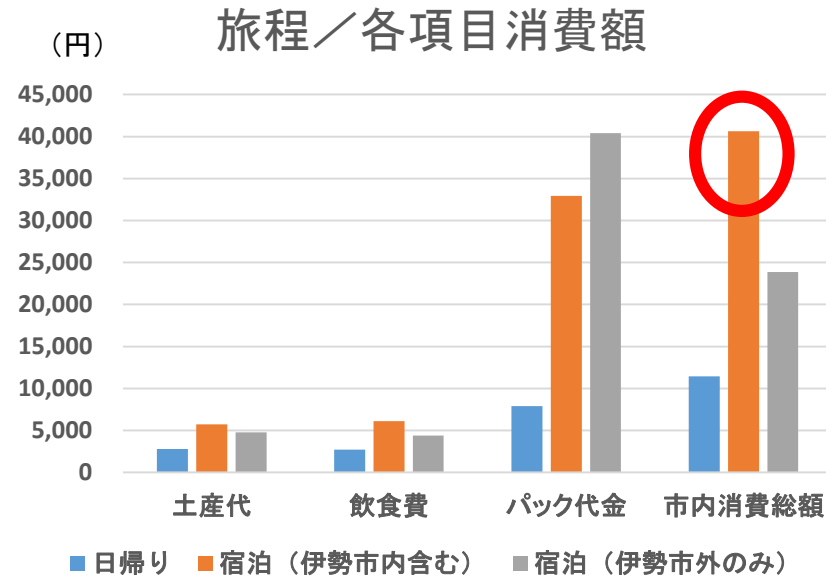
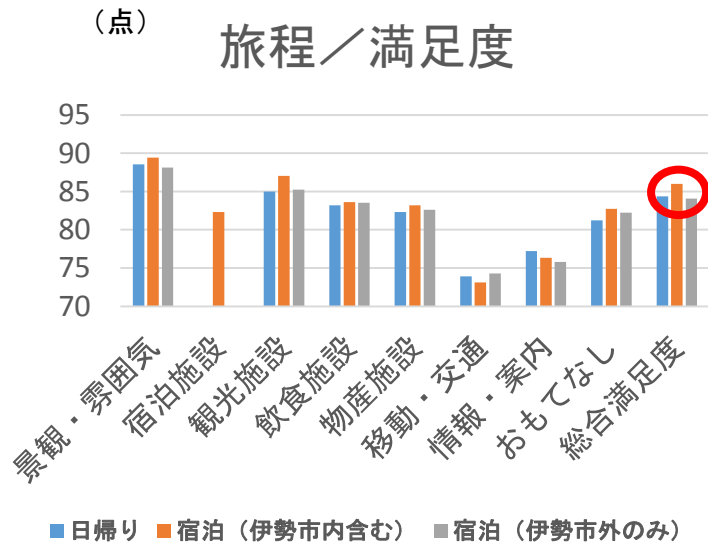


旅館のほうがホテルより宿泊費は高いが、ホテルのほうが飲食費が1200円高い。夕食が宿泊先ではなく外で食べるが多いためと推測される。

満足度の高さと消費額は比例する

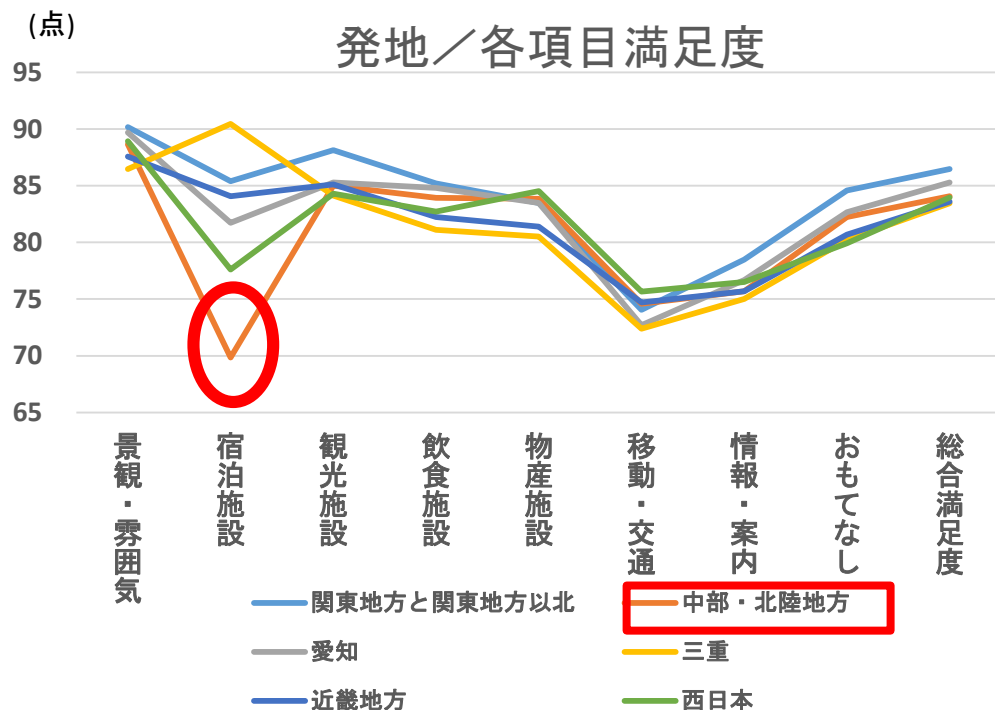


市内宿泊者は満足度・消費額ともに高い



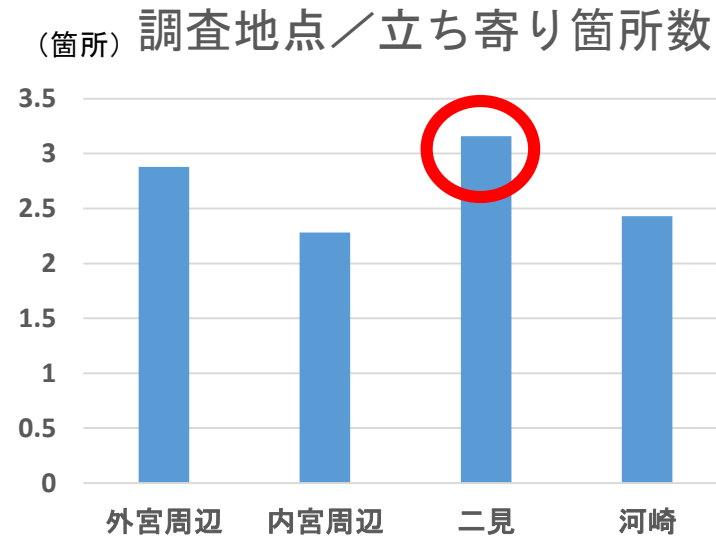
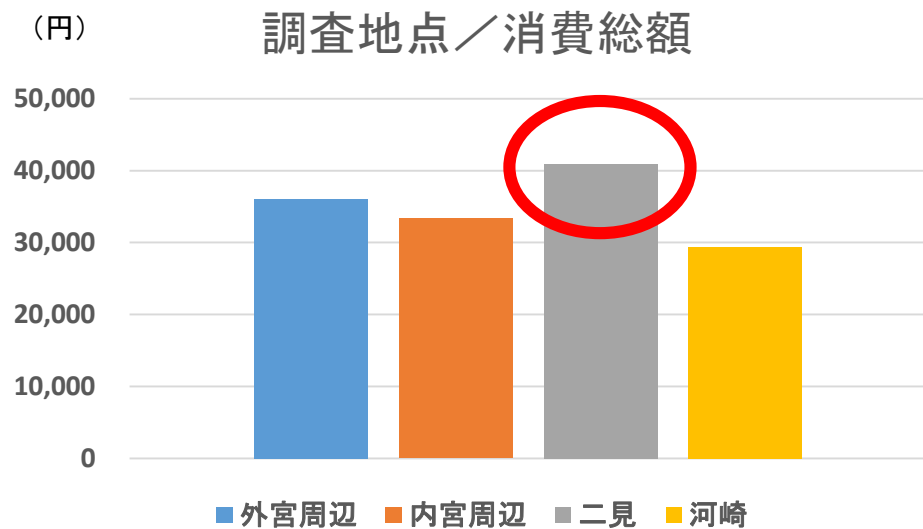
市内宿泊は、最も満足度が高い。
 最も消費額が高い。
 最も平均立ち寄り箇所数が多い。

近隣県からの観光客にとって 宿泊施設は課題



近隣県からの観光客にとって宿泊施設の満足度は低い。

調査地点「二見」は消費総額が高い



調査地点「二見」は消費総額が高い。市内周遊していることが要因と推測される。